

写

別記第1号様式（第5条関係）

平成29年12月22日

目黒区教育委員会教育長 様

目黒区立学校第三者評価
評価責任者 藤井 穂高

目黒区立第九中学校第三者評価結果報告書

1 第三者評価の実施内容

- (1) 第1回学校訪問 平成29年9月 7日(木) 午前9時30分～午後3時00分
・校長、主幹教諭、養護教諭を対象としたヒアリング
・教育活動の参観
- (2) 第2回学校訪問 平成29年9月14日(木) 午前9時30分～午後3時30分
・副校長、学校評議員、PTA役員を対象としたヒアリング
・教育活動の参観
・評価者から学校への助言

2 評価者

筑波大学人間系教育学域教授 藤井 穂高
元世田谷区立弦巻中学校長 橋本 由愛子

3 評価結果

〔評語の意味…A（十分満足できる）、B（概ね満足できる）、C（不十分なところがあり努力を要する）〕
〔所見の分類…○（成果）、●（課題）、◎（成果と課題の両者を含む）〕

評価項目		評価	
(1) 前年度の学校評価について	ア 四者による学校評価アンケート結果を踏まえた学校の自己評価の内容	評語	B
		<p>○四者による評価結果はおおむね良好である。特に評価結果の大幅な向上は学校の教職員の努力の結果として高く評価できる。</p> <p>○「学校評価のまとめのシート」の自己評価については、課題が明確に示され、改善の方向性がよく分かる。また、評価から改善につながるサイクルも機能している。</p> <p>●学校経営方針等においても評価結果を受けた改善点が明示されていることが望ましい。</p>	
	イ 学校関係者評価結果に基づいた教育課程の編成	評語	B
		<p>○学校評価委員からの評価もおおむね良好である。</p> <p>○個に応じた指導、少人数のグループ学習、eラーニングの活用など、学校関係者評価の結果が教育課程に反映されている。</p> <p>○学校評議員による意見は、現在の校長の地域活動への協力をはじめ、学校教育への取組を高く評価している。諸行事がある中で、特に、防災訓練等では、生徒の積極的な参加について、地域の方々が高く評価している。</p> <p>●学校関係者評価が大幅に改善されているにもかかわらず、学校関係者への周知等が十分に行われていない。周知等を十分にする必要がある。</p>	

(2) 学校評価 結果を踏 まえた学 校運営の 改善につ いて	ア 教育課程の実施 状況	評語	A
		<p>○教育課程の実施状況は順調である。</p> <p>○教科横断型のカリキュラムマネジメント、対話を意識した授業など、3年前と比較すると教員の指導力の向上が見られ、授業改善を意識している。</p> <p>○生徒は、全体的に落ち着いた態度で授業を受けている。このことが、学力向上へと結び付いている。</p>	
	イ 運営組織の状況	評語	A
		<p>○学校の主役は生徒であること、教職員が大人としての範を示すこと、組織的な対応を心がけることなど、学校運営のビジョンが明確であり、教職員間での理解も徹底されている。</p> <p>○校長のリーダーシップの下で運営の組織及び機能は十分に改善されている。特に、校長が「目黒区NO.1の学校へ」「チーム学校」を掲げ、全教職員のチームワークを第一に考え、意識の高揚に力を注いできたことが、成果として表れている。</p> <p>○教員相互の授業参観、自己申告面接など、人材育成の取組も行われている。</p>	
	ウ 家庭や地域との 連携状況	評語	A
		<p>○校長、副校長が地域を大切にしていることが保護者にも理解されている。また、生徒が地域行事へ積極的に参加している姿が見られる。地域の方々も、生徒に声掛け運動を行うなど、つながりをもつ努力をしている。</p> <p>○学校便り、学年便り、ホームページ、住区会議、保護者会、PTA代表者会議等を通じて、学校に関する情報が提供されている。</p> <p>○茶道部、クッキング&クラフト等において地域の人材が活用されており、老人クラブとの交流も行われている。</p>	
(3) その他	・特色ある教育活動 ・特筆すべき優れた 取組	評語	A
		<p>○「魅力」「活力」「信頼」のキーワードに基づいた実践が行われている。</p> <p>○いじめ防止プログラム、スクールバディ、eラーニング(放課後・家庭学習)、ボランティア(清掃、祭り等)、習熟度別少人数授業(英語・数学)、TT(理科)など特色ある教育活動が行われている。</p> <p>○年3回の生徒による授業アンケートも授業改善に活かされている。</p>	

	・学校間連携の状況	評語	B
		○年3回の小・中連携の日を中心とした研究日が設定されている。 ○保健体育科、数学科及び、英語科の出前授業や数学科・英語科の小学校での授業協力が行われている。 ○生徒会による小学生への第九中学校の紹介が行われている。	

4 総合評価

- ・前回の第三者評価のときよりも、全体として評価結果が大幅に向上しており、この間の学校の努力を高く評価したい。ヒアリングの限りでは保護者や学校評議員からの信頼も厚い。
- ・校長は、生徒指導、学力向上、地域活動への積極的な関わり等、具体的な内容を示し、実践への道筋を明確にしている。
- ・校長のリーダーシップの下、組織運営や教員の意識改革が大きく改善されている点が評価できる。
- ・生徒指導の面では、教職員が一体となり「チーム学校」との意識を高め、実践し、その成果を上げてきた。
- ・学校評価のまとめも丁寧に作られている。その一方で、こうした良い結果を学校関係者に周知する努力が十分ではない。せっかくの結果が活かされていないのは残念である。
- ・力のある教員が多く、学校内が落ち着いているだけに、教職員が課題意識をもち、学校の教育目標に掲げられている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向け、学校全体として取り組むことを期待したい。



別記第1号様式 (第5条関係)

平成29年12月22日

目黒区教育委員会教育長 様

目黒区立学校第三者評価
評価責任者 藤井 穂高

目黒区立向原小学校第三者評価結果報告書

1 第三者評価の実施内容

- (1) 第1回学校訪問 平成29年9月 4日(月) 午前9時30分～午後4時00分
 - ・校長、主幹教諭、養護教諭を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
- (2) 第2回学校訪問 平成29年9月28日(木) 午前9時30分～午後3時00分
 - ・副校長、学校評議員、PTA役員を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
 - ・評価者から学校への助言

2 評価者

筑波大学人間系教育学域教授 藤井 穂高
元世田谷区立弦巻中学校長 橋本 由愛子

3 評価結果

[評語の意味…A (十分満足できる) B (概ね満足できる) C (不十分なところがあり努力を要する)]
[所見の分類…○ (成果) ● (課題) ◎ (成果と課題の両者を含む)]

評 価 項 目		評 価	
(1) 前年度の学校評価について	ア 四者による学校評価アンケート結果を踏まえた学校の自己評価の内容	評語	A
		○四者による評価結果はおおむね良好である。 ○四者による学校評価では、3年前と比較すると、全体的に高くなっている。学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度等が90%以上と肯定的な評価である。 ○「評価結果のまとめ」において、成果と課題が具体的に示され、次年度への改善の方向性につながっている。	
	イ 学校関係者評価結果に基づいた教育課程の編成	評語	B
		○学校評価委員からの評価もおおむね良好である。 ○評価結果に基づき、本校の重点目標である「かかわりを大切にする子」の育成に向けた取組や、午前5時間制40分授業における基礎的・基本的な知識・技能の定着について工夫している。 ○現在の校長の地域活動への協力をはじめ、学校教育への取組が高く評価されている。校長のリーダーシップが十分に発揮されている。 ◎広報活動については、年々上がってきている。さらに、学校の教育活動が周知できるよう工夫することが必要である。	

(2) 学校評価 結果を踏 まえた学 校運営の 改善につ いて	ア 教育課程の実施 状況	評語	A
		<p>○教育課程の実施状況は順調である。</p> <p>○児童は、全体的に落ち着いた態度で授業を受けている。このことが、学力向上へと結び付いているものと思われる。</p> <p>○午後の学習タイムの運用方法の検討、教員相互の授業公開・観察などの授業改善に向けた取組や、「向原小ABC」の徹底など規範意識の向上への取組にも努めている。</p> <p>○3年前と比較すると若い教員の指導力の向上や授業の創意工夫が見られる。さらに授業改善を推進することを期待する。</p>	
	イ 運営組織の状況	評語	B
		<p>○コミュニケーションを活発にし、教職員が自立的に判断を行える組織運営が図られている。</p> <p>○校長が強いリーダーシップで学校経営している様子が随所で見る事ができた。校長と教職員との信頼関係がよく、運営の組織及び機能は十分に改善されている。</p> <p>○校内組織を全面的に見直し、目標に応じた分掌内容の明確化を図っている。</p> <p>○教職員のライフワークバランスを考え、月に一度の定時退庁日を設けている。</p> <p>◎本校にはベテランの教員が多く、今後の異動等について課題がある。現在は、指導力のある教員集団で、学校全体に落ち着きが見られる。人材育成を踏まえた学校運営の在り方をさらに工夫する必要がある。</p>	
	ウ 家庭や地域との 連携状況	評語	A
		<p>○校長、副校長が地域を大切にしている姿が保護者にも理解されている。住区の活動が活発な地域のため、校長・副校長が出席する機会が大変多い。</p> <p>○学校に隣接している緑道の清掃活動や茶道の体験学習等で、地域人材の活用とともに、地域の方々と触れ合う機会が設けられている。</p> <p>○学校便りやホームページに加え、パネルを活用した分かりやすい情報提供の工夫が図られている。</p> <p>○児童と教員との信頼関係が構築されている。</p>	
(3) その他	・特色ある教育活動 ・特筆すべき優れた 取組	評語	A
		<p>○確かな学力の向上を本校の最重要課題として位置付け、帯の時間の活用や、放課後の個別学習など取組が推進されている。</p> <p>○午前5時間制40分授業は定着しつつある。午前中の学習が午後の学習タイムにつながり、さらに翌日の午前中の授業に活かす取組も試みられている。</p> <p>○「環境の向原」と呼ばれる伝統が教育活動に生かされている。</p>	

	・学校間連携の状況	評語	B
		○第九中学校の生徒による第九中学校の紹介を行っている。 ○第6学年の児童による中学校訪問・部活体験等を実施している。 ○第九中学校区で連携し、いじめ防止プログラムを実施している。 ◎第九中学校から保健体育科、数学科、英語科の小学校への出前授業など、小・中連携の日を中心とした研究日を設定している。創意工夫した活動を推進する必要がある。	

4 総合評価

- ・校長のリーダーシップの下、各教職員は、児童との温かい関わりを大切にし、真摯な態度で教育活動に積極的に取り組んでいる。
- ・数年間、学習の基礎・基本の定着を中心に、思考力、判断力、表現力の育成に取り組んできたが、その成果が着々と表れてきている。それは、授業を参観した際によく理解できた。
- ・授業での子どもたちの表情がよく、教職員との信頼関係がうかがわれる。
- ・四者による評価もおおむね良好であり、その評価結果の分析も丁寧に行われており、評価から改善のプロセスも評価できる。
- ・中堅で力のある教員が多いことから、特別なニーズのある児童への対応も含めて、学校全体としての組織的対応のレベルを一層上げていくことを期待したい。
- ・午前5時間制も定着しつつあり、今後はその成果の検証に取り組む必要がある。
- ・組織運営については、ミドルリーダーをいかに育成していくかが課題である。



平成29年12月22日

目黒区教育委員会教育長 様

目黒区立学校第三者評価
評価責任者 藤井 穂高

目黒区立原町小学校第三者評価結果報告書

1 第三者評価の実施内容

- (1) 第1回学校訪問 平成29年9月 5日(火) 午前9時30分～午後4時00分
 ・校長、主幹教諭、養護教諭を対象としたヒアリング
 ・教育活動の参観
- (2) 第2回学校訪問 平成29年9月11日(月) 午前9時30分～午後3時30分
 ・副校長、学校評議員、PTA役員を対象としたヒアリング
 ・教育活動の参観
 ・評価者から学校への助言

2 評価者

筑波大学人間系教育学域教授 藤井 穂高
 元世田谷区立弦巻中学校長 橋本 由愛子

3 評価結果

[評語の意味…A(十分満足できる) B(概ね満足できる) C(不十分なところがあり努力を要する)]
 [所見の分類…○(成果) ●(課題) ◎ (成果と課題の両者を含む)]

評価項目		評価	
(1) 前年度の学校評価について	ア 四者による学校評価アンケート結果を踏まえた学校の自己評価の内容	評語	B
		○四者による学校評価では、おおむね良好である。 ○教職員が自信をもって児童への指導に当ることにより、学習指導、生活指導上の問題は、3年前の評価結果より今年度の評価結果は、ポイントアップしている。特に、低学年の学習指導は年々上昇していることが分かる。 ○「学校評価のまとめシート」の自己評価については、課題が明確に示され、改善の方向性がよく分かる。 ●学校経営方針等にも評価結果と改善点が明示されていることが望ましい。	
	イ 学校関係者評価結果に基づいた教育課程の編成	評語	B
		○校長のリーダーシップが十分に発揮されている。 ○学校関係者評価が、生活指導の充実、基礎基本の定着、担任の配置の仕方など具体的な改善につながっている。 ○現在の校長の地域活動への協力をはじめ、学校教育への取組が学校関係者に高く評価されている。また、諸行事がある中で、特に宿泊防災キャンプ等では、児童や教員の積極的な参加について高く評価されている。 ●本校のよさや特徴のある取組、児童が落ち着いて生活している様子をもっとアピールする必要がある。	

(2) 学校評価 結果を踏 まえた学 校運営の 改善につ いて	ア 教育課程の実施 状況	評語	A
		<p>○教育課程の実施状況は順調である。</p> <p>○各教室においておおむね落ち着いた授業が行われている。</p> <p>○国語科の読みの研究、辞書の活用、算数科での学級3分割など授業改善が進められている。バランスの良い学校行事の配置などの工夫も認められる。</p> <p>○午前5時間制、午後の学習タイムの新しい試みに全力で取り組んでいる姿勢が見られる。</p>	
	イ 運営組織の状況	評語	A
		<p>○校長と教職員との信頼関係がよく、運営組織及び機能は十分に改善されている。</p> <p>○単学級の学年の2学年での相談体制、専科教諭の学級協力、朝会及び夕会での情報の共有化、学年専任制など、組織的な学校運営のための工夫が各所に見られる。</p> <p>○若手教員の自主的な研修組織が立ち上がるなど、人材育成の工夫も認められる。</p> <p>○指導力のある教員集団で、学校全体に落ち着きが見られる。副校長も大きな役割を果たしている。</p>	
	ウ 家庭や地域との 連携状況	評語	A
		<p>○地域マイクラスプランの作成、地域主導の遠足、おやじの会による放課後子ども教室の運営協力、社会科見学での商店街の活用など地域人材の活用も行われている。</p> <p>○校長、副校長、教職員が地域を大切にしている姿が保護者等にも理解されている。</p> <p>○「原町フェスティバル」の企画・運営は全て児童がしている。地域行事に児童が積極的な関わりと参加をしていることはよい。</p> <p>○住区の活動が活発な地域のため、校長・副校長が出席する機会が大変多い。教員も協力的になってきている。</p>	
(3) その他	・特色ある教育活動 ・特筆すべき優れた 取組	評語	A
		<p>○午前5時間制や午後の学習タイムが機能し始めており、そのための教材も蓄積されつつある。</p> <p>○「原町ミニマム」や「九中校区のおやくそく」等を通して、学習習慣や生活指導の徹底が図られている。</p> <p>○異年齢集団による活動（なかよしっこ班活動）が活発であり、その成果も表れている。</p> <p>○特別支援教室の拠点校として、校長が積極的に特別支援教育を推進している。</p>	

	・学校間連携の状況	評語	B
		○年3回の相互訪問、中学校の教員による授業、第九中学校生徒会の訪問など小・中の連携も行われている。 ○特別支援教室との連携については校長がコーディネーターを務め、成果も上がっており、本校の特色として高く評価できる。 ○保育園との連携を行っている。	

4 総合評価

- ・3年前は、低学年の児童の落ち着きのなさが目立っていたが、年々生活規律・学習規律が守られるようになり、今年度は、低学年も大変落ち着いて授業を受けている。
- ・教職員の児童への温かい関わりの中で、子どもたちが落ち着きのある生活の中でのびのびと育っている様子がうかがわれる。
- ・学校評議員や保護者からのヒアリングからも理解できたが、教職員に関する信頼度が高いことが分かった。このことは、校長・副校長への信頼度が高く、中堅の教員や若手の教員が安心して児童への指導に当たっている結果の表れと思われる。
- ・午前5時間制も定着しているように見え、午後の学習タイムの教材も自校で開発されたものが蓄積されつつある。その成果の検証にも取り組み、授業改善につなげてほしい。
- ・若手の教員がその力を発揮している一方で、異動の時期も迎えつつあることから、人事計画をしっかりと構想しておくことが必要である。



平成29年12月22日

目黒区教育委員会教育長 様

目黒区立学校第三者評価
評価責任者 植田 みどり

目黒区立第十中学校第三者評価結果報告書

1 第三者評価の実施内容

- (1) 第1回学校訪問 平成29年9月5日(火) 午前9時30分～午後3時30分
 - ・校長、主幹教諭を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
- (2) 第2回学校訪問 平成29年9月6日(水) 午前9時30分～午後3時30分
 - ・副校長、養護教諭、PTA役員、学校評議員を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
 - ・評価者から学校への助言

2 評価者

国立教育政策研究所教育政策・評価研究部総括研究官 植田 みどり
元新宿区立落合中学校長 馬場 宗生

3 評価結果

【評語の意味…A(十分満足できる)、B(概ね満足できる)、C(不十分なところがあり努力を要する)】
【所見の分類…○(成果)、●(課題)、◎(成果と課題の両者を含む)】

評価項目		評価	
(1) 前年度の学校評価について	ア 四者による学校評価アンケート結果を踏まえた学校の自己評価の内容	評語	B
		○学校経営の改善に取り組んでおり、生徒、地域、教員の評価は総じて高く、保護者の評価も経年比較においても高まっている。 ○学校評価アンケートの結果の分析、課題の抽出・共有が図られ、重点目標の浸透を図りながら改善策を示している。特に、主幹教諭を中心的な役割に置いて、組織的に取り組み、成果を上げている。 ◎目標値を設定して学校評価アンケート等から重点的に改善すべき項目を選定している。今後は、取り組むための期間や学校内の人的、物的資源を考慮して重点項目の設定とプロセスを設計していくことが重要である。	
	イ 学校関係者評価結果に基づいた教育課程の編成	評語	B
		○学校評価結果を生徒、保護者、地域に周知し、思考力・判断力・表現力の育成をねらいとした教材・教具の開発と、考え、議論する道徳の授業改善に向けて取り組んでいる。 ○学力テストの結果から、さらなる学力の向上を図るとともに、規律ある学習環境の確立が第一歩と捉え、始業前に読書の時間を設定し、成果を上げている。 ●学校関係者評価で指摘されたことが、次年度の具体的な改善方策に反映されているか十分には確認できなかった。	

(2) 学校評価 結果を踏 まえた学 校運営の 改善につ いて	ア 教育課程の実施 状況	評語	B
		<p>○学力の二極化や自己肯定感が低い等の課題に対して、個に応じた指導や参加型の体験活動の充実や習熟度別指導の英語への拡大、検定対策も兼ねた補習の実施などの具体的な取り組みは保護者からも評価されている。</p> <p>○生徒自らが作成した「十中ルール」を基に「けじめ・責任・互いを大切にする」を呼び掛けあう活動が展開され、生徒の主体的な取組により、落ち着きある学習環境となっている。</p> <p>◎授業改善のための時間の確保などの課題もあり、校内研究体制や時間確保などの条件整備も含めた、授業力向上のための具体的な取組に期待したい。</p> <p>◎個に応じた指導や主体的な学びを実践するための授業改善については、より具体的な取り組みが期待される。</p>	
	イ 運営組織の状況	評語	A
		<p>○管理職は学校経営と組織運営のビジョンを明確に示し、分担した役割が掌理されるよう、イニシアティブを発揮して指導に当たっている。その結果、ミドルリーダーが育ち始めている。</p> <p>○生徒の状況や課題等について、学校相談部会、運営委員会、生活指導部会等の各会議に管理職が出席したり、運営委員会と生活指導部会に学年主任が出席したりすることで、学校内での情報把握及び情報共有の組織が整備されている。</p> <p>○主幹会を活用し、管理職がやるべきことを示し、実施は主幹に任せるようにした結果、教員の多忙感の軽減や、責任感の醸成につながってきている。</p>	
	ウ 家庭や地域との 連携状況	評語	B
		<p>○管理職が積極的に校区内の全地域（住区）と関わり信頼を回復しつつある。</p> <p>○H Pの更新頻度の改善、内容の見直し等により情報発信にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>○住区や地域との交流を深め、見守りメールなど広報面も改善するなど、学校は地域と保護者が教育活動への理解を深めるよう努めている。地域、保護者は学校は関係構築に努めていると評価している。</p>	
(3) その他	・ 特色ある教育活動 ・ 特筆すべき優れた取組	評語	A
		<p>○外部講師による体験活動や、キャリア教育と関連させた体験活動（流通関連企業、新聞社等）が充実している。</p> <p>○数学と英語で少人数指導を、保健体育科でT T指導を実施しており、授業の改善と個に応じた指導の工夫には成果が認められる。主幹教諭、主任教諭による研究授業が積極的に実施され、O J Tや授業研究も工夫して実施されている。</p> <p>○毎週1回補充学習の時間を設定し、学習指導員の指導のも</p>	

		と、自主的な学習が推進されている。学習意欲が喚起され、各種の検定試験にチャレンジする生徒も増えている。 ○生徒会活動や学校行事では、生徒が企画し運営する実行委員会が設置されていることにより、主体的な活動が推進され、成就感や豊かな人間関係の醸成につながっている。								
	・ 学校間連携の状況	<table border="1"> <tr> <td>評語</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td colspan="2">○地域で子どもを育てるという目的を明確にし、共有した上で、子どもの体験活動を増やす形で連携を強化している</td> </tr> <tr> <td colspan="2">○小・中連携において、保護者と教員の評価が低いことから、管理職の連携を強化し、交流授業や特別活動体験では、参加を希望制から小学校6年生は全員参加に変えるなど連携の在り方を見直している。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">○あいさつ運動では、生徒が出身小学校に出向いて実施されており、児童・生徒の交流の一助となり、挨拶運動が広がり、地域からも評価されている。</td> </tr> </table>	評語	B	○地域で子どもを育てるという目的を明確にし、共有した上で、子どもの体験活動を増やす形で連携を強化している		○小・中連携において、保護者と教員の評価が低いことから、管理職の連携を強化し、交流授業や特別活動体験では、参加を希望制から小学校6年生は全員参加に変えるなど連携の在り方を見直している。		○あいさつ運動では、生徒が出身小学校に出向いて実施されており、児童・生徒の交流の一助となり、挨拶運動が広がり、地域からも評価されている。	
評語	B									
○地域で子どもを育てるという目的を明確にし、共有した上で、子どもの体験活動を増やす形で連携を強化している										
○小・中連携において、保護者と教員の評価が低いことから、管理職の連携を強化し、交流授業や特別活動体験では、参加を希望制から小学校6年生は全員参加に変えるなど連携の在り方を見直している。										
○あいさつ運動では、生徒が出身小学校に出向いて実施されており、児童・生徒の交流の一助となり、挨拶運動が広がり、地域からも評価されている。										

4 総合評価

- ・管理職が進むべき方向性を示し、それを主幹教諭等が主体的に取り組む体制を作ることで、人材育成を図りながら学校経営が行われている点で評価できる。今後は主幹教諭が自らその責任を果たし、実効性が上がっていくような管理職の支援と指導の充実を期待する。
- ・授業力の向上、学習指導の改善のためには、個に応じた指導や主体的な学習を実現するような授業力の向上を個々の教員の能力に応じた形で実施できるような体制整備と指導体制の構築が必要である
- ・PDCAサイクルにより、評価結果を生かすシステムが確立されており、四者による学校評価を踏まえた教育課程が編成されている。校長は成果と課題を明確にし、重点目標の浸透を図りながら改善策を示している。目標を段階的に設定し、達成度を段階的に検証し評価することが肝要である。
- ・生徒指導では、言語環境を整えることなど、人権に重きを置いた校長の方針により、好ましい行動とともに問題行動も見逃さないという指導体制のもとで、情報の共有のシステム化を図り、組織的に対応するように努めている。教職員が危機管理への意識を高めながら実践し、早期に発見し早期に対応することで落ち着きある学習環境となっており、取組の成果として評価できる。



別記第1号様式 (第5条関係)

平成29年12月22日

目黒区教育委員会教育長 様

目黒区立学校第三者評価
評価責任者 植田 みどり

目黒区立八雲小学校第三者評価結果報告書

1 第三者評価の実施内容

- (1) 第1回学校訪問 平成29年6月27日(火) 午前9時30分～午後3時30分
 - ・校長、主幹教諭、養護教諭を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
- (2) 第2回学校訪問 平成29年6月28日(水) 午前9時30分～午後3時30分
 - ・副校長、PTA役員、学校評議員を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
 - ・評価者から学校への助言

2 評価者

国立教育政策研究所教育政策・評価研究部総括研究官 植田 みどり
 元新宿区立落合中学校長 馬場 宗生

3 評価結果

[評語の意味…A(十分満足できる)、B(概ね満足できる)、C(不十分なところがあり努力を要する)]
 [所見の分類…○(成果)、●(課題)、◎(成果と課題の両者を含む)]

評価項目		評価	
(1) 前年度の学校評価について	ア 四者による学校評価アンケート結果を踏まえた学校の自己評価の内容	評語	B
		○学校評価アンケート結果を全教員で共有すると共に、校務分掌で改善方策を検討する仕組みが出来ている。 ○中間評価を実施し、年度途中に教育活動を検証し、組織的に改善策を講じる等、迅速に経営にあたっている。 ○保護者・地域の評価は経年比較において高まってきており、評価結果を公表する等、次年度の教育課程に反映させる努力をしている。 ◎学校評価アンケートの分析が、学校経営方針との関係での評価活動になっていない点が今後の課題である。	
	イ 学校関係者評価結果に基づいた教育課程の編成	評語	B
		○アンケート結果を事前に説明した上で学校関係者評価を行い、その結果を踏まえて自己評価を行っている。 ○学校関係者評価の周知を図り、評価結果に基づいた教育課程を編成している。 ○学力調査や体力テストの結果等各種データを踏まえ、課題を明確にした取組を行っている。	

(2) 学校評価 結果を踏 まえた学 校運営の 改善につ いて	ア 教育課程の実施 状況	評語	B
		<p>○学力の二極化、教員の指導力の差等の課題に対して、「八雲スタンダード」による学びのスタイルの統一化、「授業づくりシート」による教員相互の学び合いの機会の提供等の工夫がされている。</p> <p>○授業づくりチェック表による授業観察、週案を通じた個別的な指導の工夫等、管理職が教員への指導を行ったり、授業研究が主幹教諭や主任教諭の主導で実施されたり、ねらいに即した指導が共通実践されている。</p> <p>●国語の校内研究で培った主体的な学びの手法を他教科に生かすことについては、OJTの活性化が期待される。</p>	
	イ 運営組織の状況	評語	B
		<p>○主幹教諭を要としたライン制による組織体制が確立しており、主幹教諭が当事者意識をもち教育活動を推進している。</p> <p>●10年未満若手委員会を立ち上げ、主任教諭を中心とした組織作りや、学年を単位とした交換授業や合同授業により授業力向上を組織的に行おうとしている。ただし、現在はまだ授業改善まで寄与しているとは言えないので、主任教諭のミドル層の人材育成を積極的に行い、組織が機能していくように管理職のリーダーシップを期待したい。</p> <p>●一人ひとりの役割が明確に位置付けられているが、全教職員の意識改革という点ではまだ不十分な点がある。</p>	
	ウ 家庭や地域との 連携状況	評語	B
		<p>○地域、保護者、学校の三者が一体となって子どもたちを育てるという意識を醸成している。</p> <p>○企業等と連携した体験活動、図書ボランティアやゲストティーチャー等、外部人材の活用がされている。</p> <p>○学校と地域の連携は地域からも高く評価されており、保護者や地域の学校への信頼につながっている。</p>	
(3) その他	・ 特色ある教育活動 ・ 特筆すべき優れた取組	評語	A
		<p>○並行読書等は国内外から多くの視察があり、読み聞かせや八雲図書館との連携等、工夫がされている。</p> <p>○縦割り班活動は、リーダーシップや自己肯定感の育成と人間関係の醸成や豊かな心の育成につながっている。</p> <p>○特設クラブ「金管バンド」は定期演奏会をはじめとして、儀式的行事や地域行事での演奏などで高い評価を受けている。</p> <p>○特別支援学級との日常的な交流を通して、心の教育に力を入れている点は、子どもの心の成長に寄与している。</p>	
	・ 学校間連携の状況	評語	B
		<p>○十中学校区の校長が連携し、近隣保育園を含め、子ども同士が交流する活動を増やしている。</p> <p>○挨拶運動では八雲小学校を卒業した中学生の参加が増し、</p>	

		<p>連携が進んでいる。</p> <p>●合同研修会を行うことにより、連携を深めている。小・中連携への保護者の関心を高めるためにも、保護者への情報発信を工夫することも方策の一つである。</p>
--	--	--

4 総合評価

- ・学校評価アンケート結果を分析し、そこからの課題抽出等を行い、改善方策を組織的に立案するようになった点は評価できるが、経営方針で示した目標の達成状況を検証するための評価になっていない。今後は学校経営方針に即した達成目標の設定とそれを検証するための指標の設定を行い、それを検証するための評価活動を期待したい。
- ・ワークライフバランスや教員間の均等な負担、授業研究等を考慮して組織作りをするなどの視点は評価できる。今後は、それが機能するために必要な手立てとして、主幹教諭や主任教諭等のミドルリーダーの育成、教諭の経営への参画意識の啓発等に校長や副校長がリーダーシップを発揮することを期待したい。特に、授業研究については、教員間の差が見られるため、ミドルリーダーが主体となって、組織的に学び合い、教え合うことができるような条件整備と体制整備を期待したい。
- ・生活指導面では、個別的指導を要する指導と全体的指導のバランスをどのように取るのかが等、見守りながら規範意識や自己統制力を育てる指導の工夫が今後の課題である。共通実践により指導力向上のためのさらなる取り組みが期待される。
- ・地域に開かれた学校づくりに努めており、学校への信頼となっている。小規模校であるが故にできるきめ細かな教育活動が展開されていることの成果を広く地域内に広めるためにも、地域のニーズに応える情報発信の工夫も必要である。



別記第1号様式 (第5条関係)

平成29年12月22日

目黒区教育委員会教育長 様

目黒区立学校第三者評価
評価責任者 植田 みどり

目黒区立東根小学校第三者評価結果報告書

1 第三者評価の実施内容

- (1) 第1回学校訪問 平成29年6月30日(金) 午前9時30分～午後3時30分
 - ・校長、副校長を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
- (2) 第2回学校訪問 平成29年9月22日(金) 午前9時30分～午後3時30分
 - ・主幹教諭、養護教諭、PTA役員、学校評議員を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
 - ・評価者から学校への助言

2 評価者

国立教育政策研究所教育政策・評価研究部総括研究官 植田 みどり
元新宿区立落合中学校長 馬場 宗生

3 評価結果

[評語の意味…A (十分満足できる)、B (概ね満足できる)、C (不十分なところがあり努力を要する)]
[所見の分類…○ (成果)、● (課題)、◎ (成果と課題の両者を含む)]

評価項目		評価	
(1) 前年度の 学校評価 について	ア 四者による学校 評価アンケート結 果を踏まえた学校 の自己評価の内容	評語	B
		○学校評価アンケートについて多角的に分析し、学校の良さと課題を把握し、教育活動の見直しに活かしている。 ○成果と課題を明確にし、ミドルリーダーが中心的な役割を担い、組織的な取り組みにより成果を上げている。 ◎四者の評価はおおむね高く、規律と秩序のある学習環境のもとで活発な教育活動が推進されている。学校として次に目指す方向を具体的に示すことが肝要である。 ●地域の回答数が少ないという課題解決を図るため、趣旨やねらいを丁寧に説明する必要がある。	
	イ 学校関係者評価 結果に基づいた教 育課程の編成	評語	B
		○学校評価委員会が計画的に設定されている。人権尊重教育の研究成果を継続して実践に結び付けるなど、学校関係者評価結果に基づいた改善点を教育課程に反映させている。 ◎学校関係者評価委員会での指摘事項が改善策にどのように反映されているか、具体的に示す必要がある。	
(2) 学校評価 結果を踏 まえた学 校運営の 改善につ	ア 教育課程の実施 状況	評語	C
		○人権尊重教育推進校としての道徳教育の取組や東根スタンダードの徹底により、学校の秩序が回復し始めている。道徳教育の成果を他の教科指導にも生かすことについて、今後の授業改善が期待される。 ◎校長は、授業力の向上のため、事前に授業観察のポイントを伝え、校長室便りで授業観察及び事後指導を行うととも	

いて		<p>に、授業計画を確認し、随時授業の実施状況を把握している。教員自身の主体的な取組とともに、組織的な指導、支援体制の構築を期待したい。</p> <p>◎健康教育では、保護者と教員の評価が他の項目に比較して低い。調査結果を分析し、指導計画を見直すことが確認されており、今後の実践が期待される。</p> <p>●生活指導が安定した今年度からは授業改善が新たな課題となっており、その取組の着実な進捗を期待したい。昨年度まで取り組んできた道徳教育の成果が他の教科指導に活用されていない点が課題である。基礎・基本の定着と個に応じた指導力の向上とともに、授業のねらいに即し、主体的・対話的で深い学びを実現する指導法の工夫と改善も課題である。</p>		
	イ 運営組織の状況	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">評語</td> <td style="width: 50%;">B</td> </tr> </table> <p>○いじめ対策委員会や特別支援教育委員会、生活指導夕会等の情報共有のための組織が整備され、一人ひとりの役割が明確に位置付けられている。職員の共通理解、情報共有により、一定の成果を上げている。</p> <p>○管理職が学校経営の明確なビジョンを示し、イニシアティブを発揮することで、教員の意欲が喚起されている。</p> <p>◎ミドルリーダーの積極的な経営参画により、組織の活性化が図られている。引き続き、教員の資質の向上と人材の育成を図ることが肝要である。</p> <p>●今後は教員一人ひとりが当事者意識をもち、自ら考え協働しながら取り組むための組織作りが必要である。ミドルリーダーの育成に期待したい。そのために、主任会を機能させることが必要である。</p>	評語	B
評語	B			
	ウ 家庭や地域との連携状況	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">評語</td> <td style="width: 50%;">B</td> </tr> </table> <p>○人権尊重教育推進校として取り組んできたことが地域や保護者にも認められ始めており、「地域に開かれた学校」として信頼が回復してきている。</p> <p>○秩序ある学習環境づくりを目指した「東根スタンダード」を家庭にも配付し、学校と家庭の共通理解力のもとで、児童の健全な育成が推進されている。</p> <p>◎地域とは従来からの活動が中心なので、これを機に学校教育への支援も含めた新しい関係づくりを期待したい</p>	評語	B
評語	B			
(3) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特色ある教育活動 ・ 特筆すべき優れた取組 	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">評語</td> <td style="width: 50%;">A</td> </tr> </table> <p>○毎週の校長室便りの発行は、教員に校長の考えを理解させ、同じ方向性をもって学校経営を行う上で、学校経営上の良い取組となっている。</p> <p>○7月に中間の学校評価を実施し教育活動を検証しながら、改善点を明確にして後期の実践に生かす等、迅速に取り組んでいる。</p> <p>○縦割り班活動は、リーダーシップや自己肯定感の育成と、健全な人間関係や豊かな心の育成につながっている。</p> <p>○人権尊重教育の研究を通して、言語環境を整える取組により、話す力や聞く力が育ち、落ち着きある学習環境となっている。</p>	評語	A
評語	A			

・ 学校間連携の状況	評語	B
	○小・中連携活動では、校区内の校長が現状の課題を話し合い、子どもたちが参加してできる活動も含めた新しいことを始めるという共通認識をもった上で、活動を段階的に拡大させている。これは保護者からも好評である。 ○近隣の5小学校が連携して研究授業の計画表を作成し、授業を相互に公開し合い、授業研究できるシステムを作ったことは、画期的なことであり、研修の成果が期待される。 ○小・中連携において、保護者の評価が低いこともあり、連携の在り方を見直している。小・中学校の交流授業や特別活動の体験では、6年生の参加を全員参加とし、校区の小・中学校が連携して改善を図っている。 ○挨拶運動では、中学生が来校して実施することで、児童・生徒の交流の場ともなり、さらに挨拶運動が広がり、地域からも評価されている。	

4 総合評価

- ・現校長が着任してから学校の変化は内容といいスピード感といい評価できることである。人権尊重教育推進校として取り組んできたことで、学校が落ち着き、次のステップとして学習指導に取り組むという段階に来ている。まだ授業については個々の教員の差があり、課題があるがその課題を克服し授業改善に取り組んでいくためにも、情報共有や共通理解だけでなく、個々の教員が主体的に活動に参加していくための組織作りが必要である。そのためにはミドルリーダーの人材育成が必要である。
- ・管理職と教員、教員同士、学校と保護者、地域の信頼関係の回復が同校の強みである地域に開かれた学校として、今後の関係性の発展に期待される。地域の評価アンケートの回収率が低い点は改善を要する。
- ・学校評価結果を生かすシステムが確立されており、四者による学校評価を踏まえた教育課程が編成されている。校長は成果と課題を明確にし、重点目標の浸透を図りながら改善策を示している。組織的な学校運営の下で経営方針の具現化に向けた取り組みがなされており、活発な教育活動が展開され成果を上げている。
- ・「東根スタンダード」をもとにした共通実践により、秩序と規律ある学校生活となっている。さらには主体的な学習の導きと、個に応じた指導の充実を目指した授業の工夫と改善が課題である。



平成29年12月22日

目黒区教育委員会教育長 様

目黒区立学校第三者評価
評価責任者 植田 みどり

目黒区立宮前小学校第三者評価結果報告書

1 第三者評価の実施内容

- (1) 第1回学校訪問 平成28年9月26日（火） 午前9時30分～午後3時30分
 - ・校長、主幹教諭、養護教諭を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
- (2) 第2回学校訪問 平成29年10月5日（木） 午前9時30分～午後4時00分
 - ・副校長、PTA役員、学校評議員を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
 - ・評価者から学校への助言

2 評価者

国立教育政策研究所教育政策・評価研究部総括研究官 植田 みどり
元新宿区立落合中学校長 馬場 宗生

3 評価結果

[評語の意味…A（十分満足できる）、B（概ね満足できる）、C（不十分なところがあり努力を要する）]
[所見の分類…○（成果）、●（課題）、◎（成果と課題の両者を含む）]

評価項目		評価	
(1) 前年度の学校評価について	ア 四者による学校評価アンケート結果を踏まえた学校の自己評価の内容	評語	C
		○四者による学校評価を踏まえ、児童・保護者・地域に周知を図り、適切な自己評価がなされており、成果と課題を明確にし、重点目標の浸透を図りながら、改善策を示している。年度の途中の自己評価の実施により、落ち着いた教育活動が推進されている。 ◎生活指導では教員と保護者の評価が低く、また、学校生活については高学年児童の評価が低かったが、全校で統一した指導を実践し、落ち着いた教育環境を作り出している。 ●学校評価アンケート結果を分析した課題の抽出が十分に行われておらず、直面する問題を解決するための取組になっている。 ●学校評価アンケートの結果や次年度の取組は保護者に説明がされているが、数値が示されていない。	
	イ 学校関係者評価結果に基づいた教育課程の編成	評語	C
		○年間指導計画の見直しを図っており、実態に即して実践している。特に、授業の質の改善・向上と学習規律の確立に向けた取り組みを進めている。 ○人権尊重教育推進校として研究を推進しており、他を思いやる豊かな心の醸成や道徳的実践力の向上が期待される。 ◎基礎・基本の定着と個に応じた指導を実施し、児童は集中して学習している。児童の主体的な学習を導く指導の工夫	

		と改善による授業力の向上が課題である。 ●学校関係者評価で指摘された事項が次年度の取組の中でどのように反映されているのかが明確に判断できない。
(2) 学校評価 結果を踏 まえた学 校運営の 改善につ いて	ア 教育課程の実施 状況	<p>評語 C</p> <p>○教育課程を適切に実施し、落ち着きある教育環境を整えている。分掌主任は、年間指導計画に基づく指導計画を確認し、達成率による進行管理の徹底を図っている。</p> <p>○児童の学習活動の状況について定期的に情報を共有し、授業規律を重視した教育活動が推進されている。</p> <p>●管理職による授業観察の時間が十分に確保されていない。宮前塾がマンネリ化しているため、管理職がリーダーシップを発揮しながら主幹教諭や主任教諭を中心とした学び合いの体制を整備し、優れた授業力を有する教員の指導法から学び、実践の共有化を図る必要がある。</p> <p>●人権尊重教育推進校として研究してきた道德教育の研究成果をベースに道徳的実践力の育成や問題解決学習の推進などに取り組みたいが、時間的余裕がないという課題があり、その対応策が講じられていない。</p>
	イ 運営組織の状況	<p>評語 B</p> <p>○校長のイニシアティブによって、人材の育成と資質の向上が図られており、教職員の役割も組織的に位置付けられ、ミドルリーダーの育成等、人材の育成と資質の向上が図られている。</p> <p>○校務分掌を見直し、一人一役を担うとともに、各分掌のリーダーがグループの人に仕事を割り振ることができるようになり、相談もしやすく、仕事も分担してできるようになるという成果を上げている。</p> <p>○いじめ対策委員会や校内委員会、生活指導夕会等で、全体で問題を共有し、共通の方向性で取り組む組織体制がある。</p> <p>●定期的な主幹会議の開催が難しく、校長と副校長、副校長と主幹教諭は会合の時間はもっているが、三者での会合の時間が取れていない。</p>
	ウ 家庭や地域との 連携状況	<p>評語 B</p> <p>○校長が率先して、地域やPTAと関わることにより、信頼を回復し、地域やPTAが積極的に支援をしている。</p> <p>○保護者地域との関係が構築され、地域に開かれた学校となっている。</p> <p>○ホームページや学校便りなどの広報活動が工夫され、日常的な細やかな情報発信や、管理職の迅速で適確な対応が、学校と保護者、地域との関係の構築につながっている。</p> <p>○卒業生である宇宙飛行士や有識者を招聘した体験的な学習も、生き方を学ばせる教育として特色ある教育活動である。</p>
(3) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特色ある教育活動 ・ 特筆すべき優れ 	<p>評語 B</p> <p>○地域からの支援による活動やおやじの会などが活発に行われている。</p> <p>○異学年交流や6年生の鼓笛による演奏活動により、子ども</p>

	<p>た取組</p>	<p>たちのリーダーシップや自己肯定感、健全な人間関係の醸成や豊かな心の育成につながっている。</p> <p>◎人権尊重教育推進校として、豊かな心の醸成や道徳的実践力の育成を目指した研究の実践と成果が期待される。</p>	
	<p>・ 学校間連携の状況</p>	<p>評語</p>	<p>B</p>
		<p>○第十中学校区の管理職がリーダーシップを発揮し、連携しながら交流授業や全員参加型の特別活動等を設定するなど、新たな取組を展開している。</p> <p>○小・中連携において、保護者の評価が低いこともあり、連携の在り方を見直している。小・中学校の交流事業や特別活動の体験では、6年生の参加を全員参加とするなど、校区の小中学校が連携して改善を図っている。</p> <p>○挨拶運動では、中学生が来校して実施することで挨拶運動が広がり、地域からも評価されている。</p> <p>◎第五ブロックの管理職が、相互に授業研究の情報を共有し、教員が相互に見合う機会を提供しようとしている。今後は参加が可能となるよう校内体制整備が必要である。</p>	

4 総合評価

- ・共通理解と情報共有をしながら全教職員で取り組むことの重要性が意識されている。しかし、まだ個人に頼っている側面が強いことから、主幹教諭が要となり、若手や中堅の教員の経営参画の意識を喚起しながら、組織として活動できるような体制整備が必要である。
- ・生活指導についてはある程度落ち着きを見せているため、そのことを土台として授業改善にも取り組むことが課題である。知的欲求の高い児童が落ち着いて学ぶためには、その欲求に対応できるような主体的な学びや問題解決学習は重要である。授業力を教員が身に付けることができるように、授業力育成のための時間の確保や体制整備、そしてそれを牽引する管理職のリーダーシップと指導の充実を期待したい。
- ・学校評価結果を生かすシステムが確立されており、校長は成果と課題を明確にし、改善策を示している。四者による学校評価を踏まえた教育課程が編成され、規律ある学校生活の下で活発な教育活動が展開され成果を上げている。成果と課題を検証する過程において、指導の目標を段階的に設定し、達成度を段階的に検証し評価することで達成度が明確になると共に、次の課題の明確化にもつながる。
- ・校地を活用した稲作や野菜の栽培と、有識者を招聘した体験的な学習は、地域や保護者と連携した、生き方を学ばせる特色ある教育活動となっている。



目黒区教育委員会教育長 様

平成29年12月22日

目黒区立学校第三者評価
評価責任者 小池 和男

目黒区立東山中学校第三者評価結果報告書

1 第三者評価の実施内容

- (1) 第1回学校訪問 平成29年9月12日（火） 午前9時30分～午後4時00分
 ・校長、副校長、主幹教諭を対象としたヒアリング
 ・教育活動の参観
- (2) 第2回学校訪問 平成29年9月14日（木） 午前9時30分～午後4時00分
 ・主幹教諭、養護教諭、PTA役員、学校評議員を対象としたヒアリング
 ・教育活動の参観
 ・評価者から学校への助言

2 評価者

帝京科学大学教育人間科学部学校教育学科教授 小池 和男
 元宇都宮海星女子学院中学校・高等学校長 齋藤 直子

3 評価結果

〔評語の意味…A（十分満足できる）、B（概ね満足できる）、C（不十分なところがあり努力を要する）〕
 〔所見の分類…○（成果）、●（課題）、◎（成果と課題の両者を含む）〕

評価項目		評価	
(1) 前年度の 学校評価 について	ア 四者による学校 評価アンケート結 果を踏まえた学校 の自己評価の内容	評語	B
		○一部を除き、項目は全般に渡って肯定的評価が8割を超えている。学校生活や学習に関する生徒評価が前年より減少していることを受けて、改善策を講じている。 ○小・中連携についての保護者の認知度は校区の共通課題として例年取り上げられている。連絡協議会において、学習指導・生活指導の情報交換を実施し、系統的な指導やホームページの更新など、改善努力が継続されている。 ●生徒の評価と教員の自己評価とを比べると、差異のある項目が10項目あり、学校の教育活動は、15ポイント近い差がある。生徒にとって納得できない教育活動は何か、どのような対応策があるか、分析考察と的確な対応が必要である。	
	イ 学校関係者評価 結果に基づいた教 育課程の編成	評語	B
		○特別の教科「道徳」の実施に向けて、道徳の時間の充実や全教育活動を通じた豊かな心の育成を重視した教育課程が編成されている。 ◎学校は、創立60周年を記念する教育活動の実施により、生徒の関心を高め、所属感や連帯感、伝統の継承と新たな文化の創造に向けた意欲の育成を図っている。その一方で、生徒会活動に関心をもって取り組んでいない生徒がいる。	

		より一層の工夫が必要である。 ◎歴史がある住宅地にある学校として、積み重ねた相互の「信用」が堅固である。評価については、総括的に是とする鷹揚さがあるものとうかがえる。		
(2) 学校評価 結果を踏 まえた学 校運営の 改善につ いて	ア 教育課程の実施 状況	<table border="1"> <tr> <td>評語</td> <td>B</td> </tr> </table> <p>○「つよく、かしく、あたたかく」の生徒像を掲げ、文武両道の精神を踏まえ、人間性豊かな生徒の育成を目指した教育課程の実施に向けて、生徒及び教職員にそれぞれの明確な目標が示されている。</p> <p>◎各教科等の学習においては、ICT機器が活用され、自作教材が積極的に用いられている。年度当初に課題として提示された週案の作成を教員に浸透させることによって、授業改善が一層具現化できるのではないかと考える。</p> <p>●教育課程そのものは素晴らしいが、教育課程を実施する上で生徒の能力を最大限に伸ばすことに挑戦する、といった教員の実践意欲が不足している。</p>	評語	B
	評語	B		
	イ 運営組織の状況	<table border="1"> <tr> <td>評語</td> <td>C</td> </tr> </table> <p>◎校長の確固とした経営姿勢が「学校経営方針」として明確に示されている。経営方針を定期的に周知し浸透を期して振り返らせることにより、組織的に運営改善が図られることを期待する。</p> <p>◎行動方針として、「率先垂範・師弟同行」を合言葉に基本理念が示されている。今後は、学校改善の方向性や指標を具体的かつ明確にして、組織的な学校運営を進めてほしい。</p> <p>●経営計画は非常に緻密で優れているが、ベテラン層に材を得ていない苦しさがある。個人的にではなく組織として具現化する方策を教員に身に付けさせて行く必要がある。</p>	評語	C
評語	C			
ウ 家庭や地域との 連携状況	<table border="1"> <tr> <td>評語</td> <td>A</td> </tr> </table> <p>○保護者や地域は、学校の伝統と誇りが、見える形で示されていることに信頼を寄せている。行事を続けることが、学校への信頼につながっているものと考ええる。</p> <p>○地域の方を講師とする「生き方教室」、小学校や地域の方も参加する「部活動駅伝大会」、生徒と教員による「お年寄りのためのパソコン教室」などを開催し、地域との交流に積極的に取り組んでいる。</p>	評語	A	
評語	A			
(3) その他	<table border="1"> <tr> <td>評語</td> <td>B</td> </tr> </table> <p>・特色ある教育活動 ・特筆すべき優れた取組</p> <p>○文武両道の精神を培う一環として、すべての生徒がいずれかの部活動に所属し活動することを基本とし、全教員が部活動の顧問を務め、体制を整えている。</p> <p>○各部対抗の駅伝大会は、住区や地域の協力・支援を得て、毎年3月に実施されている。運動部のみでなく、地域の大人・OB・小学校選抜チームも参加している。保護者・地</p>	評語	B	
評語	B			

		<p>域との連携強化につながる特筆すべき取組である。</p> <p>○大勢の帰国生徒等が在籍する学校の実情を踏まえ、保護者会を複数回実施し、保護者同士の交流を図っている。帰国生徒等を対象とし、長期休業中に補充教室を実施し、地域人材の支援を得て指導の充実を図り、成果を上げている。</p> <p>◎特別の教科 道徳の研究発表に取り組むことは、大きな挑戦である。教員の指導力を飛躍的に伸長させる機会と捉え、意欲的に取り組んでほしい。</p>
	・学校間連携の状況	<p>評語 B</p> <p>○「烏森・東山子育て教育懇談会」は、児童・生徒の健全育成を図る取組として成果を上げている。各学校において規範意識や規律遵守などについて共通の考えで健全育成を進めるとともに、各PTA・保護者同士の相互連携・交流を深めていることができています。</p> <p>◎小・中連携は、「東山中学校区小・中連携子ども育成プラン」に基づき、確かな学力の育成を目指して系統的な教科指導と言語活動の充実等について具体的な連携方法を毎年設定している。今後も、保護者の認知度を上げるべく、授業公開、出前授業、学校便りの小学校への記事提供、ホームページの相互リンク等の広報を継続してほしい。</p> <p>●目立つ行事を行うよりも、連携が必要となる取組を教職員全体で考えることが先決である。</p>

4 総合評価

- ・環境の整備について、「子どもたちの学習環境・生活環境を整える」ことを目標に、生徒と共に取り組んでいる成果が訪問する度に確認できた。校舎全体が整然と整理され、豊かで潤いのある、落ち着きと和らぎを感じさせる空間となっている。教室・廊下等の校舎、校庭や校地周辺の清掃活動が徹底されている証である。また、廊下等の掲示板の活用と掲示の工夫が施されている。質の高い日常の教育活動で育まれた優れた作品が掲示されているのも楽しみである。教育環境の安全性・機能性が重視されており、保護者・地域の誇りと信頼につながっている。学校環境の整備の範である。
- ・伝統的諸活動は、生徒の自信と誇りに満ちた活動として継続・実施され、保護者や地域の間で定評があり毎年待望されている。運動会の開・閉会式の一糸乱れぬ入場行進、応援団の力強い堂々たる演技、文化祭等で行われる学年・学級劇、「結（ゆい）～心と心を結ぶ架け橋～」の活動方針を掲げた生徒会役員が主体となって行うフォークダンスなどである。東山中学校の伝統によって培われた諸活動の更なる継承・発展を保護者、地域とともに期待している。
- ・家庭環境、地域環境、生徒の資質など、良い公教育を実践できる条件は十分に整っている。生徒の能力をさらに向上させるべく様々な教育活動に挑戦して、教職員自身の資質をも高めていくよう、精力的に取り組んでほしい。



目黒区教育委員会教育長 様

平成29年12月22日

目黒区立学校第三者評価
評価責任者 小池 和男

目黒区立烏森小学校第三者評価結果報告書

1 第三者評価の実施内容

- (1) 第1回学校訪問 平成29年8月30日(水) 午前9時30分～午後3時00分
 - ・校長、主幹教諭、養護教諭を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
- (2) 第2回学校訪問 平成29年9月7日(木) 午前9時30分～午後3時30分
 - ・副校長、PTA役員、学校評議員を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
 - ・評価者から学校への助言

2 評価者

帝京科学大学教育人間科学部学校教育学科教授 小池 和男
元宇都宮海星女子学院中学校・高等学校長 齋藤 直子

3 評価結果

[評語の意味…A(十分満足できる)、B(概ね満足できる)、C(不十分なところがあり努力を要する)]
[所見の分類…○(成果)、●(課題)、◎(成果と課題の両者を含む)]

評価項目		評価	
(1) 前年度の学校評価について	ア 四者による学校評価アンケート結果を踏まえた学校の自己評価の内容	評語	C
		○学校生活の肯定的評価が、四者共通しておおむね満足できる数値となっており、この点は評価できる。 ●児童の学習態度や授業の工夫、基礎学力の定着に対する課題が指摘されている。学習規律や落ち着きのある学習環境の中での集中した学習へと改善していく必要がある。 ●広報活動については、保護者の肯定的評価が6割台と低くなっている。ホームページをこまめに更新していく等、広報に関する校内体制を整えていく必要がある。 ●児童の評価と教職員の自己評価の数値に、いくつかの項目で乖離が見られる。詳細な分析をして、課題を整理し、改善していく必要がある。	
	イ 学校関係者評価結果に基づいた教育課程の編成	評語	B
		○学力向上を目指した取組として、児童の実態を踏まえた「授業改善プラン」を作成し、評価計画や評価方法の工夫改善を図っている。児童の調査個票を活用した学習相談を生かし、指導と評価の一体化に努めている。 ○算数科の習熟度別指導は、東京方式習熟度別指導ガイドラインに沿った指導や、東京ベーシックドリルの活用を取り入れた指導を展開し、指導方法や指導体制の工夫改善を図っている。	

		<p>●管理職を含めて、教職員と保護者とは、学校教育の捉えに差違が生じるものである。保護者が捉えることができている部分については、今まで以上に説明するようにして、理解を求めていく必要がある。</p>
<p>(2) 学校評価結果を踏まえた学校運営の改善について</p>	<p>ア 教育課程の実施状況</p>	<p>評語 B</p> <p>○国語科を中心として校内研究を充実させ、日々の授業では区独自の言語活動指導資料を活用し、多様な言語活動に取り組んでいる。授業参観では以前より落ち着いたある授業が展開されており、学習規律の定着が図られている。</p> <p>○学習指導においては話し合い活動を取り入れ、構造的で丁寧な板書を行い、授業改善を意識して取り組んでいた。</p> <p>●外国語活動は、ALTとの役割分担を明確にして、落ち着いたある授業態度や発声によってコミュニケーションを図る楽しさを味わわせていくことが望まれる。</p> <p>●教員はそれぞれに努力しているが、足並みを統一する必要がある。少人数を生かした指導を展開するために、学級経営の質を平準化することから始めるとよい。</p>
	<p>イ 運営組織の状況</p>	<p>評語 B</p> <p>○学校経営方針では、「子供も大人もともに伸びていく学校」の実現を目指し、自らの資質や能力を高めることを求めている。「週案」作成については、管理職の捺印とともに職員室内の掲示により共有化して徹底を図っている。</p> <p>○創立90周年行事に向けた各種の取組では、保護者や地域との連携の強化とともに、教職員が一体となって知恵を出すよう意識の高揚を図っている。</p> <p>○生活指導部会は、情報の共有・指導の充実を図っている。特に、課題となっている基本的な生活習慣の徹底、学習規律の定着を目指し、全教職員で共有している。</p> <p>●若手教員の牽引役となる中堅層には、若手教員への指導力に自信がもてず、十分に力を発揮できていない教員がいる。中堅層に、自信をもたせるような役割を担わせていく必要がある。</p>
	<p>ウ 家庭や地域との連携状況</p>	<p>評語 B</p> <p>○保護者や地域との連携は良好と評価する。学校行事や学校公開、保護者会等の内容充実を図るとともに、児童や教職員が住区の会議や町会等の地域行事に積極的に参加して連携を深めるなどの丁寧な関わりができています。</p> <p>○学校では、学校図書館を充実させ、多目的な活用・読書活動の推進を図っている。保護者の図書ボランティア活動では、蔵書管理・環境整備を積極的に行っている。</p> <p>●学校は様々な努力をしているが、親子試食会等の断片を捉えて、否定的な評価をされている。連携行事の開始・終了は根拠を示して、理解を求めていくことが大切である。</p>

(3) その他	・特色ある教育活動 ・特筆すべき優れた 取組	評語	B
		<p>○国語科や国語の学習タイムにおいて、発表や話し合い活動の他、語彙の習得、詩の暗唱、スピーチ等の言語活動に取り組んでいる。また、学校図書館の活用・計画的な読書指導の実施、保護者ボランティアの協力による夏季休業中の学校図書館の全日開館など、読書活動の充実を図っている。</p> <p>○縦割り班による遊びや集会活動、交流行事を通して、思いやりや相互理解の心の育成につなげている。また、環境保全の活動や天然芝生の校庭活用、地域の自然や文教施設、地域人材を生かした教育活動を展開している。</p> <p>○校舎内外の整美が適切に行われている。今後も日常生活を通して、物を大切に使う態度を養ってほしい。</p>	
	・学校間連携の状況	評語	B
		<p>○就学前教育からの連続性を意識した小学校教育への円滑な接続体制を充実させる教育活動を推進している。近隣の幼稚園や保育園5園との学校行事や交流活動を教育課程に位置付け、意図的・計画的に実施している。</p> <p>○小学校で培う基礎的な学力、生活習慣等を身に付けさせることができるよう、努力していると感じられる。</p> <p>◎東山中学校を中心とした「小・中連携子ども育成プラン」に基づき、様々な連携が図られてきている。保護者の認知度を上げられるよう、広報活動等の工夫が求められる。</p>	

4 総合評価

- ・様々な教育活動の取組が必ずしも学力向上に結び付かない現状がある。しかし、教育活動の参観を通して、児童や教職員の様子は、以前とは違った明るさを感じ、「学び合い 高め合うからすもりの子」の実現が図られている。保護者・地域からの信頼も厚く、理解しようという姿勢が高まっている。学校の実情に即した校長の学校経営方針が徐々に浸透している成果である。
- ・校長を中心として、それぞれの役割を担う副校長、主幹教諭、指導教諭による組織的な運営・指導体制が整ってきている。課題となっている学力向上に向けて、若手教員の資質向上の育成を図り、確かな授業力、学校運営への参画態度の増長をはじめとする学校経営方針の地道な具現化への努力を期待したい。児童・保護者の相談に当たっては、有用な役割を發揮している養護教諭と連携しながら、温かな個別指導を徹底することが望まれる。
- ・目黒区は研修に向かう上でも便が良い。区教育委員会の対応も、一般教職員に対しても管理職に対しても温かい。自校に留まらず、他校の実践を取り入れるなどして、良い授業、良い学級経営に取り組んでいくことが大切である。
- ・小・中連携の推進は、課題の一つである。まずは、卒業生の様子を中学校に見に行くことが大切である。学校の地の利に感謝し、生かし切る気持ちをぜひもってほしいと思う。



目黒区教育委員会教育長 様

平成29年12月22日

目黒区立学校第三者評価
評価責任者 小池 和男

目黒区立東山小学校第三者評価結果報告書

1 第三者評価の実施内容

- (1) 第1回学校訪問 平成29年9月4日（月） 午前9時30分～午後3時00分
 - ・校長、主幹教諭、養護教諭を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
- (2) 第2回学校訪問 平成29年9月26日（火） 午前9時30分～午後3時30分
 - ・副校長、PTA役員、学校評議員を対象としたヒアリング
 - ・教育活動の参観
 - ・評価者から学校への助言

2 評価者

帝京科学大学教育人間科学部学校教育学科教授 小池 和男
元宇都宮海星女子学院中学校・高等学校長 齋藤 直子

3 評価結果

〔評語の意味…A（十分満足できる）、B（概ね満足できる）、C（不十分なところがあり努力を要する）〕
〔所見の分類…○（成果）、●（課題）、◎（成果と課題の両者を含む）〕

評価項目		評価	
(1) 前年度の学校評価について	ア 四者による学校評価アンケート結果を踏まえた学校の自己評価の内容	評語	A
		○全般に渡り、肯定的評価が8割を超えている。経年比較でやや低下した課題については、改善に向け、教育課程の編成に生かしている。 ○教員の授業力、生活指導力の更なる充実に向けて○J T研修計画を立てて取り組んでいる。初任者層、中堅層を問わず、よりよい教育を実践する力を高めようとしている。 ○小・中連携の肯定評価が前回と同様に他の項目に比べ低率であることを踏まえ、教員同士の連絡会及び授業参観・懇談会の充実を図っている。学校だよりやホームページなどによる情報発信の改善、地域人材の活用、地域行事への参加等、改善に向けた努力が続けられている	
	イ 学校関係者評価結果に基づいた教育課程の編成	評語	A
		○心の教育の充実に向け、保護者評価を踏まえ、新学習指導要領に沿った道徳教育年間指導計画を作成し、道徳教育推進教師を中心に、全教育活動を通してマナーや規律、思いやりの心を育む教育課程を編成している。 ○児童理解の推進に向け、専科教諭による副担任制や学年担任制、高学年の交換授業、習熟度別指導などを取り入れている。	

		○学力の定着・向上を目指し、「東山スタンダード」に沿った全校の共通指導により学習規律や生活規律の確立を図っている。教員の能力を引き出し、取組を推進している。	
(2) 学校評価 結果を踏 まえた学 校運営の 改善につ いて	ア 教育課程の実施 状況	評語	A
		○歴史と伝統のある校風を継承し、教育理念の下、児童自らが学びを深められるよう、教職員を育成している。また、保護者・地域が誇りに思う学校像を明確にし、全教育活動で継続的に実践している。	
		○新校舎の施設を生かした学年体制、全校で共通の授業規律、言語活動の充実に関する取組を確認した。今後も「書くこと」の充実を図り、児童主体の学び合う学習過程が展開されることを期待する。	
		○中堅層、ベテラン層ともに初任者層の指導にあたっている。学校全体で意識を高めて取り組んでいる。	
	イ 運営組織の状況	評語	A
		○学校運営の改善に向け、管理職、主幹教諭等のラインが明確にされている。課題解決に向けた取組を校務分掌組織や会議の精選等を実現しながら推進している。全教職員のチームワークを基本とした学校運営を目指し、引き続き学校活性化に取り組んでほしい。	
		○校内研究の充実を目指し、研究部会を組織化し、研究授業を保護者に公開して行っている。若手教員の育成は、学年部会を中心として日常的に実施している。管理職の授業参観による指導が、学校運営の活性化になっている。	
		○教職員は、校長の学校経営、教職員の育成方針を信頼している。信頼される運営が組織力の向上に寄与している。	
	ウ 家庭や地域との 連携状況	評語	A
		○心のふるさととなる学校を目指し、特色ある地域人材の積極的な活用をはじめ、ゲストティーチャーや交流学习等を多く設定して、地域との連携強化に努めている。	
		○年度の早い時期に道徳授業地区公開講座や授業参観等の学校公開日を設定している。保護者会や学校・学年だより、ホームページ、地域との交流など情報発信に努めている。	
		◎負担感のある要望に対しては、丁寧に対応しながら学校の方針を説明することで理解を得られている。教員の実践を分かりやすく伝える等、継続可能な連携を図っていく必要がある。	

(3) その他	・特色ある教育活動 ・特筆すべき優れた取組	評語	A
		<p>○伝統ある国際理解教育が継続実践されている。異文化に慣れ親しむ活動として成果を上げるとともに、保護者参観を通して保護者に伝え、教育活動の理解につなげている。</p> <p>○地域の狂言師や茶道家を招聘し、日本文化に触れる活動に取り組んでいる。伝統文化の紹介や体験の活動を通して、自己の生き方、自国文化の理解を図っている。</p> <p>○課外活動「特設管弦楽クラブ」を設置し、集会活動や学校行事、芸術家との交流、地域行事、高齢者施設訪問、音楽コンクールなどへの参加活動等に取り組んでいる。地域との連携強化や、学校・地域への愛着を深める意義のある活動となっている。また、学校内外からの評価も高く、卒業生や保護者、地域の支援者も多い。今後も継続されることを期待する。</p>	
	・学校間連携の状況	評語	B
		<p>○東山中学校の生活指導体制になじめるように育成しようとする姿勢が、第5・6学年の学級指導に見ることができた。</p> <p>○「東山中学校区小・中連携子ども育成プラン」に基づき、確かな学力の育成を目指した系統的な教科指導と言語活動の充実を目指した年間計画を作成し、成果を上げている。</p> <p>◎保育園・幼稚園との連携については、今後も入学後のスムーズな適応を目指した緊密な連携の実施を継続するとともに、学校の取組の情報発信を強化していくとよい。</p>	

4 総合評価

- ・着任初年度の校長であるが、長い校長経験を生かして、900名近い児童数かつ帰国子女が2割程度と転出入児童が多い現状の中、「真心を込めて、やり抜こう」の教育理念の下、和らぎのあるリーダーシップにより学校改善に向けた学校経営を展開している。組織を挙げて取り組むことの重要性を教員に説いて実効性のある学校運営を心掛け、児童はもとより保護者や地域への丁寧な対応による学校の活性化を目指していることが感じられた。
- ・若手教員の増加による資質・能力維持の課題解決に向け、児童が主体的に学ぶ授業改善を短期目標として掲げ、1単位時間の課題の設定、問題解決過程における指導など、指導の方策を示している。若手教員への指導・支援にあたっては、主幹教諭をはじめとした組織的な育成に努め、授業内容の充実を図っている。
- ・校長は、教職員に対しても、児童に対しても慈愛深く接していた。常に「この教職員、この児童を伸ばすために、今どんな手だてが必要か」を考えて指導していた。同時に、教育活動が継続継承可能であることを大切にして、個人の熱意によってのみ支えられた取組を努めて除く清廉な姿勢も矚目するところである。
- ・若手教員が増加する中、学年の指導に統一性をもたせて、ある学級の取組が突出したり、遅滞したりしないように調整していることが、保護者に信用される要因となっている。
- ・学校全体の調和を保ちつつも、優れた資質を有する教員の意欲をどこまで発揮、実践させるか考えていくことが大切である。